

備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

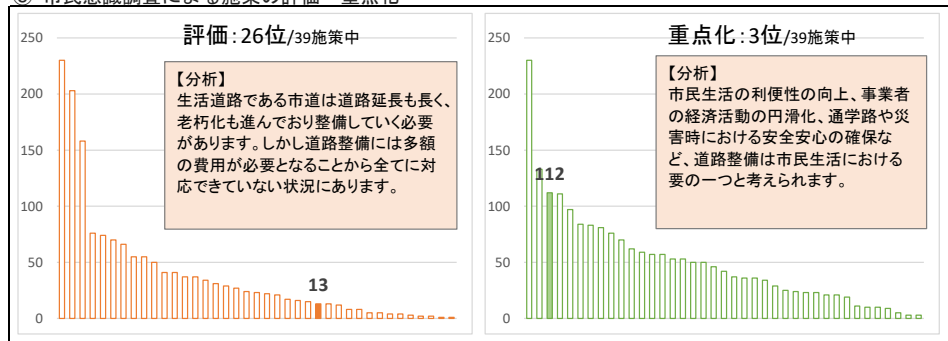
【令和2年度作成】

施 策 名 (小項目)	道路環境の整備	決算書 P154	(款)8 土木費 (項)2 道路橋梁費
コード	05-08-33	作成者	建設課長 淵本 安志 (tel 64-1833)
この施策の アピール ポイント	市民生活の利便向上や地域経済の活性化、通学路や災害等緊急時の避難路・輸送路として安全安心の確保等に寄与している。		
この施策の 令和元年度の 施政方針	道路環境の整備につきましては、引き続き企業団地、香登・西鶴山地区の大型車両通行の円滑化を図るため香登4号線を拡幅してまいります。その他の道路、橋梁につきましても計画的に整備を進め、適正な維持管理に努めてまいります。		

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想(大項目)	生活環境政策「快適・活力」
	基本計画(中項目)	快適な生活が送れるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	市民生活の利便向上、事業者の経済活動の円滑化、通学路や災害時における安全安心の確保	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	生活道路である市道は、老朽化したり、幅員の狭い道路が残されており、市民にとって安心・安全な道路となるよう、危険、緊急性などから優先順位を決め、整備していく必要があります。また、多くの市道、橋梁が耐用年数を迎えつつあり、安全性を確保するため、これまでの事後対応から計画的かつ予防的な対応へ転換し、長寿命化によるコスト削減を図っていく必要があります。 国道2号をはじめ市内の幹線道路は、朝夕の通勤時間帯の渋滞や多くの箇所ですでに発生しています。加えて、整備が連続していないミッシングリンク(※)が円滑な交通を阻害している箇所もあり、その解消に向け、国や県に要望をしていく必要があります。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 国・県道の整備促進 計画的な市道整備と長寿命化計画 通学路の施設整備 市民との協働による維持管理 災害等緊急時における関係機関との連携強化 	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



⑥ 施策成果指標 (基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単 位	過年度実績			評価年度 R1	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H29	H30	H31			R3	R5
成果 指標 市道整備率	目標	%	21.0	21.0	21.0	幅員4m以上の市道延長/市道実延長 (4m以上延長 100,763.5m / 市道 総延長 477,439.4m)	R3	21.5
	実績	%	21.0	21.0	21.1		R5	21.5
	達成率	%	100.0	100.0	100.5			
	ベンチマーク		-	-				
参考 指標 ① ボランティア団体登録数	目標	団体	50	50	50	登録団体数	R3	45
	実績	団体	44	47	43		R5	50
	達成率	%	88	94	86			
	ベンチマーク		-	-				
参考 指標 ② 道路維持管理ボランティア 団体活動回数	目標	回	200	200	200	活動回数	R3	180
	実績	回	173	191	160		R5	200
	達成率	%	87	96	80			
	ベンチマーク		-	-				
参考 指標 ③ 橋梁の点検実施数 (全体 502橋のうち、年間約 100橋点検を行う計画)	目標		6	2	100	点検実施数 (H26~H30の五箇年、502 橋) ※H31~H35 二巡目予定502橋	R3	100
	実績		6	2	143		R5	100
	達成率	%	100.0	100.0	143.0			
	ベンチマーク							

⑦ 目標達成に必要な新規事業(施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
国・県	それぞれの管理区間との連携	連携を密にすることにより、未整備区間の解消と面的な整備を促進する。

⑧ 施策の評価

項 目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判 断	理 由 (なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	3		整備率は道路整備状況を顕すものであり指標として妥当である。これからの施設管理においては市民との協働による維持管理活動が重要となってくるため本指標は妥当である。
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	3		維持管理費用が削減されている中において、市民との協働によるボランティアは妥当である。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中 長期の達成見込みは?	3		財政状況は引き続き厳しいが年次的に整備を進めており、今後更なる整備促進を目指す。
進行年度(R2年度)の取組内容 (課題解決状況)		国道2号は香登・西鶴山地区においてH24年度から国交省により安全対策のための整備が進められ、28年度からは一部工事着手しています。県道においては市内数箇所について、継続的に事業を実施します。又、市道・生活道路も引き続き修繕をおこなうとともに、通学路、企業誘致のための改良整備を進めます。	
翌年度(R3年度)の取組目標		国・県事業については事業が円滑に進捗するよう調整に努めるとともに、引き続き事業の促進に向け強力に要望活動を続けていきます。又、市道の改良、修繕については年次的に進め適正な維持管理に努めます。ボランティア活動状況を広報、ホームページ、フェイスブックなどに紹介し参加団体の増加を目指します。	
二次評価者コメント		道路環境の整備は、要望の高い事業です。香登4号線など継続している幹線道路の改良は、引き続き速やかにすすめて下さい。生活道路は、維持管理に努め、地区住民と協議しながら、危険、緊急性、効率を判断して、優先順位を決め、改良を進めてください。	基本施策への 貢献度 4 やや高い
役職	建設部長		
氏名	藤森 亨		